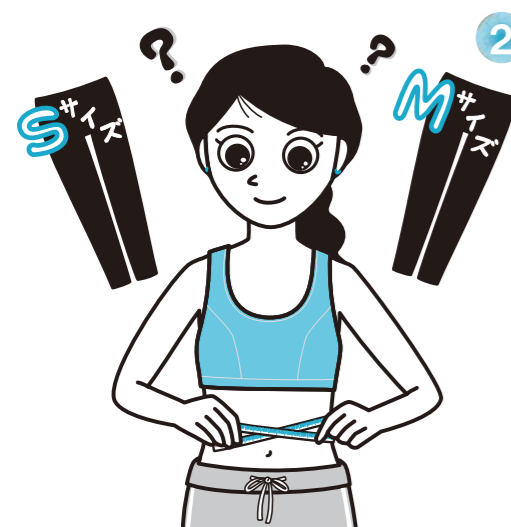


事故を防ぐために

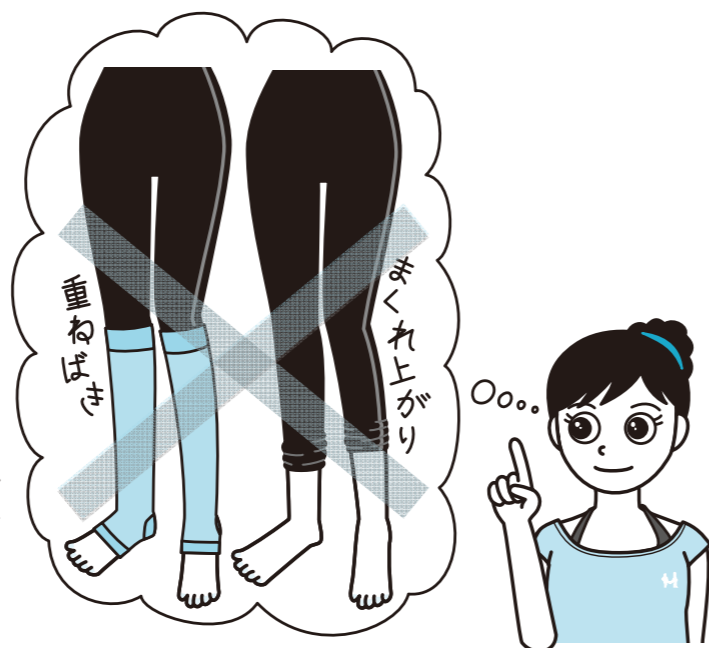
① 着用中は同じ姿勢を続けないなど、使い方に注意しましょう

加圧を利用したスパッツは、部位によっては医療用の弾性ストッキングと同等以上の衣服圧になることがあります。特に「しゃがむ」姿勢をしたときに膝やふくらはぎの衣服圧が高くなり、加圧を利用したスパッツを着用することで静脈血が停滞しやすくなる可能性があります。同じ姿勢を続けないなど、使い方に注意しましょう。



② 適正なサイズを選びましょう

自分の身体寸法を正しく把握し、サイズが適正なものを選ぶことが大切です。通信販売等では商品を確認することが難しいため、購入の際には慎重に対応しましょう。



③ 重ね履きやまくれ上がりにも注意しましょう

衣服圧が高まる危険がありますので、着用時にはハイソックスなど他の加圧製品との重ね履きは避け、まくれ上がりにも注意しましょう。

●本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

●本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。
 特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。
 商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。
 無断転載はお断りいたします。



独立行政法人
国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL.042(758)3165 ●2012年2月発行

デザイン=独立行政法人国民生活センター商品テスト部

くらしの危険 Number 305

加圧を利用したスパッツの使い方に注意

衣服を着用したときに体に加わる圧力（衣服圧）を利用して「脚スッキリ」や「筋肉のサポートを高め疲労感を軽減」等の効果をうたった下半身用の衣服、いわゆる加圧を利用したスパッツが多くみられるようになりました。

医療の現場では、治療の一環として弾性ストッキングなどが使われていますが、これらには、糖尿病の患者には使用しないことや、使い方によっては血行障害や神経障害を起こすこともあり注意が必要である等の表示もされています。一般の消費者向けに通信販売で簡単に購入できる商品もありますが、使い方によっては同じような注意が必要です。



加圧を利用したスパッツに関する苦情相談

PIO-NETには、加圧を利用した衣服に関する相談が寄せられています。相談の多くは、脚を加圧するスパッツに関するもので、中には、商品を着用したら神経に障害が出た、腫れや痛みが出た、脚がつったなど、危害に関する

相談もありました。

また、通信販売で購入した例が多く、「サイズが合わなかった」「きつくて苦しい」などのサイズや加圧の程度が分からずに購入したと思われる相談もみられました。

こんな事故が起きています

ケース 1 テレビで紹介されていた、身に付けるだけで痩せる商品を着用したところ、ウエスト部とそけい部が赤く腫れて黒ずみ、痛みとかゆみを伴った。皮膚科を受診したところ、締め付けているかアレルギーによるものと診断された。(60歳代 女性)



ケース 2 商品を履いて一日中草むしりをしたところ、^{ひこつ}腓骨神経麻痺*となった。症状が出た翌日から1ヶ月通院し、注射や低周波治療を受けたが、半年たっても足首に力が入らない。(40歳代 女性)

*腓骨神経麻痺：^{かたい}下腿の外側から足背、足指にかけて、感覚障害が生じ、しびれや麻痺等が生じる。腓骨頭部（膝外側）の外部からの圧迫等により起きることがある。



ケース 3 1ヶ月でシェイプアップ効果が出ると広告していた商品を購入。3日前に突然湿疹が出た。特に太ももは帯状に真っ赤になった。全体的に熱も帯びているようだったので皮膚科を受診。外部から何らかの圧力がかかった影響と説明され、加圧式のパンツを履いていることを伝えると、今後着用しないように言われた。(40歳代 女性)

ケース 4 「痩せる、筋肉が強くなる」という商品を購入し、1日履いてみたが、きつくて脚がつったり吐き気がしてきたので着用をやめた。(60歳代 男性)

衣服圧による身体への影響について

適度な衣服圧は皮下脂肪の揺れを抑えて運動しやすくする機能を持つ一方で、衣服圧が四肢にかかると皮下の毛細血管や動静脈が圧迫され、40hPa以上の衣服圧が大^{だいたい}腿^{たい}部や膝に加わるとうっ血状態を招くとの報告があります。

*参考：田村照子、小柴朋子、平田耕造：衣環境の科学、建帛社（2004）

加圧を利用したスパッツについてテストしました

通信販売で購入できる加圧を利用したスパッツ10銘柄に、一般医療機器の弾性ストッキング3銘柄を参考品として加え、テストしました。

主なテスト結果

1. 衣服圧の分布

医療用の弾性ストッキングは、足首から上部に向けて衣服圧が低くなる段階着圧構造の傾向がみられました。一方で、加圧を利用したスパッツは、ふくらはぎの衣服圧が高いものなど衣服圧の分布が弾性ストッキングとは異なり、身体の上部に向かうにしたがって弾性ストッキングと同等かそれを超える衣服圧のものが多くありました。

2. 重ね履きをしたときの衣服圧

比較的服装圧が低い銘柄でも、加圧タイプのハイソックスと重ね履きをすると、足首やふくらはぎの衣服圧が高くなりました。

3. 小さいサイズを着用したときの衣服圧

適正サイズより小さいサイズを着用すると、特に「しゃがむ」姿勢をしたとき、膝の衣服圧が高くなりました。

4. 姿勢による衣服圧の変化

姿勢を変えると衣服圧は変化し、「椅子に座る」「しゃがむ」姿勢では衣服圧が高くなりました。特に「しゃがむ」姿勢をしたときに膝やふくらはぎの衣服圧が医療用の弾性ストッキングを着用したときより高くなったものがありました。

表示等について

1. 衣服圧に関する表示

衣服圧に関する表現や衣服圧を加える構造を表す表現は銘柄によってさまざま、脚の下の方から上部に向かうにしたがい衣服圧を低減する構造をうたった銘柄とそれ以外の銘柄では、衣服圧の分布に大きな差はみられませんでした。

2. 注意表示

10銘柄中4銘柄には注意表示がなく、参考とした医療用の弾性ストッキングと比較して注意表示が少ない状況でした。

3. サイズ選択に関する表示

サイズ選択の際に基準となる部位は「ヒップ」と「ウエスト」や「ヒップ」と「身長」などさまざま、どこの部位を目安に購入すれば良いのかは銘柄によって差がありました。

医療用の弾性ストッキングについて

一般医療機器の弾性ストッキングは、四肢の静脈血、リンパ液のうっ滞を軽減または予防するなど、静脈還流の促進を目的に使用され、四肢の末梢部から体の中枢部に向けて段階的に圧を低減する構造を持っています。平成20年より40hPa以上の弾性ストッキング等は、四肢のリンパ浮腫の治療のため医師の指示書により療養費が支給される対象になりました。